

# AIで石礫自動判別 砂防調査の効率化支援

オリコンサルら

オリエンタルコンサルタンツらは、人工知能（AI）を活用して砂防事業で行う「石礫（せきれき）」の調査を効率化するサービスの調査を開始した。溪流など

をドローン（無人航空機）で空撮。撮影画像をベースに独自の解析手法によって礫の粒径を自動で判読する。ダムなどの砂防施設や

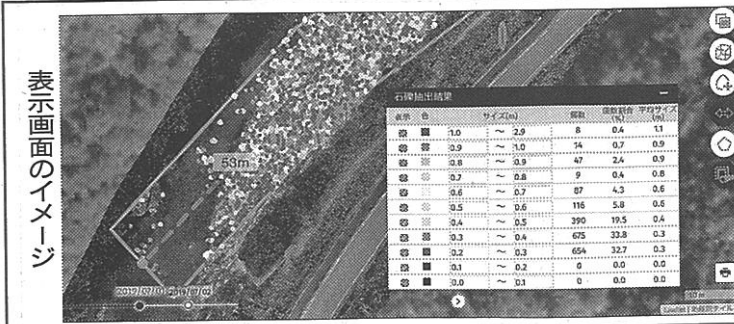
溪流の状況把握につなげる。2020年度は60件程度の提供を目指す。

サービスの名称はAI礫判読システム「グラッチェ」。同社と産業用のリモートセンシング・サービスを展開するスカイマテイク

ス（東京都中央区、渡邊善太郎社長）が開発した。判読方法は、クラウドサーバーにドローンで空撮した複数の溪流画像を集約。地形の高低差を示すDSM

画像や3D点群データを基に、地形データを自動で生成する。AIを使い石礫の大きさや数、位置を自動で計測。抽出結果をレポートとしてまとめる。

サービス内容は基本プラン（年間契約）が12万円（税抜き）。石礫の自動判読機能を付加した場合は月60万円となっている。詳細は「グラッチェ」の紹介サイト（<https://smx-gravel.check.com/>）を参照。



表示画面のイメージ